

■ 基本設計業務

1. 委託先 株式会社 遠藤克彦建築研究所
2. 選定方法 舞鶴市図書館基本計画の考え方を踏まえ、公募型プロポーザル方式により、技術提案を求め、最も適切な設計事業者を選定。
3. 業務期間 令和6年3月21日～9月30日
4. 主な業務内容
 - ① (仮称) 舞鶴市立中央図書館基本設計
 - ② 西舞鶴駅東口駅前広場整備基本計画案の作成
 - ③ 測量業務



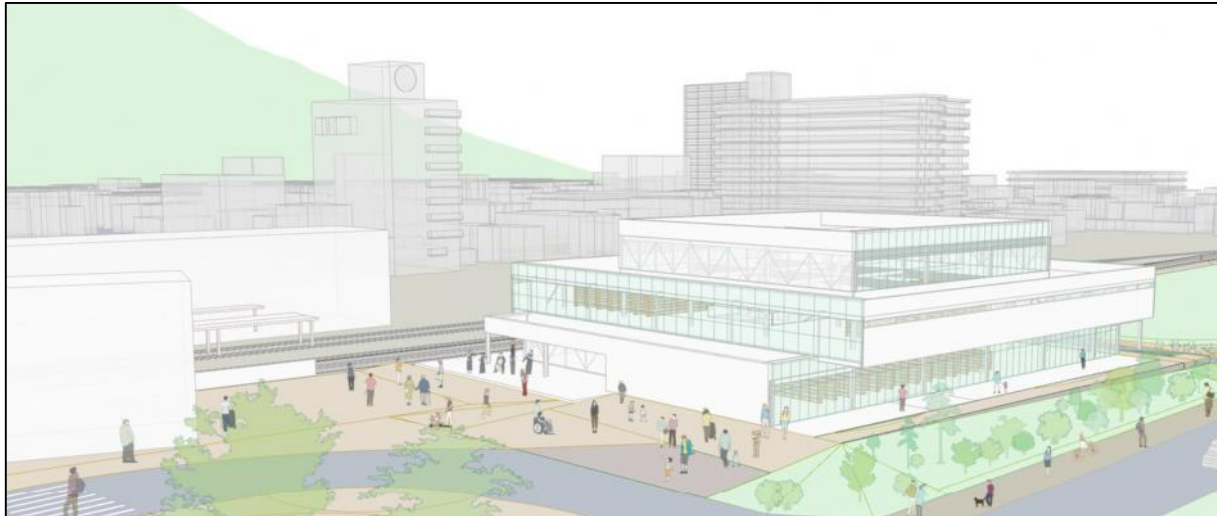
■ ワークショップの実施（基本設計をテーマに3回実施）

回	日程	テーマ	参加者
1	4月27日(土) 14時～16時 総合文化会館	「舞鶴市図書館基本計画の読み解きからプロポーザル案へ」 ～どんな図書館にしたいか～	37名 (傍聴者:5名)
2	6月15日(土) 13時30分～15時30分 西駅交流センター	「第1回ワークショップの振り返りから新しい設計案へ」 ～中央図書館設計案の新たな提案に対する充足点・不足点について～	39名 (傍聴者:12名)
3	8月3日(土) 13時30分～15時30分 西駅交流センター	「新しい図書館でだれと・いつ・どこで・なにをしたいと思いますか」 ～新たな図書館の使い方・過ごし方（新たな設計案について）～	38名 (傍聴者:5名)

ワークショップ時点における外観イメージ図の変更

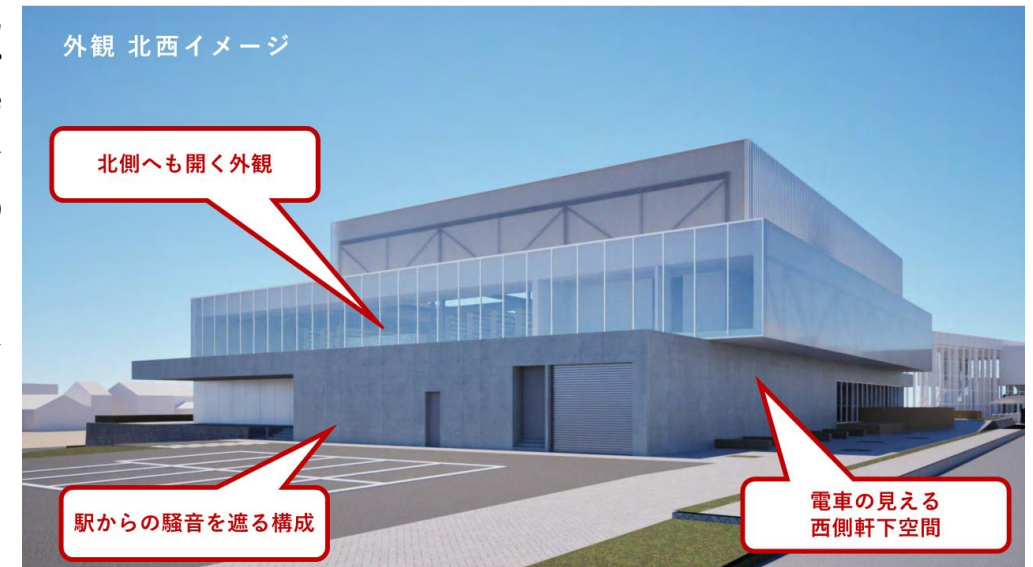


プロポーザル時点でのイメージ図



第1回ワークショップ後、第2回ワークショップ時点でのイメージ図

第3回ワークショップ時点でのイメージ図



イメージ図提供：株式会社遠藤克彦建築研究所

中央図書館基本設計の概要

【新たな情報・交流を積み上げ、市民とともに作る図書館】



＜基本理念・基本設計による施設の特徴＞

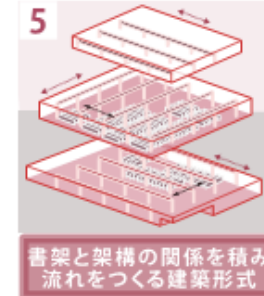
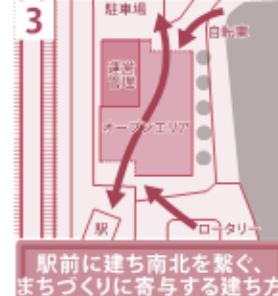
- 京都府北部連携の中心拠点となる図書館
- 舞鶴の玄関口となる拠点施設
- 市民のための図書情報・蔵書の充実
- 市民活躍・課題解決等を促す館内構成
- 堅牢な構造と環境に配慮した設備計画
- 多様な利用を受け止める運用のしやすい施設

基本設計後・完成イメージ
透視図：南東側外観

設計のポイントと内部イメージ

設計趣旨 / 計画のポイント

基本計画を活かした
本計画の
7つのポイント



(1F 南エントランス付近)

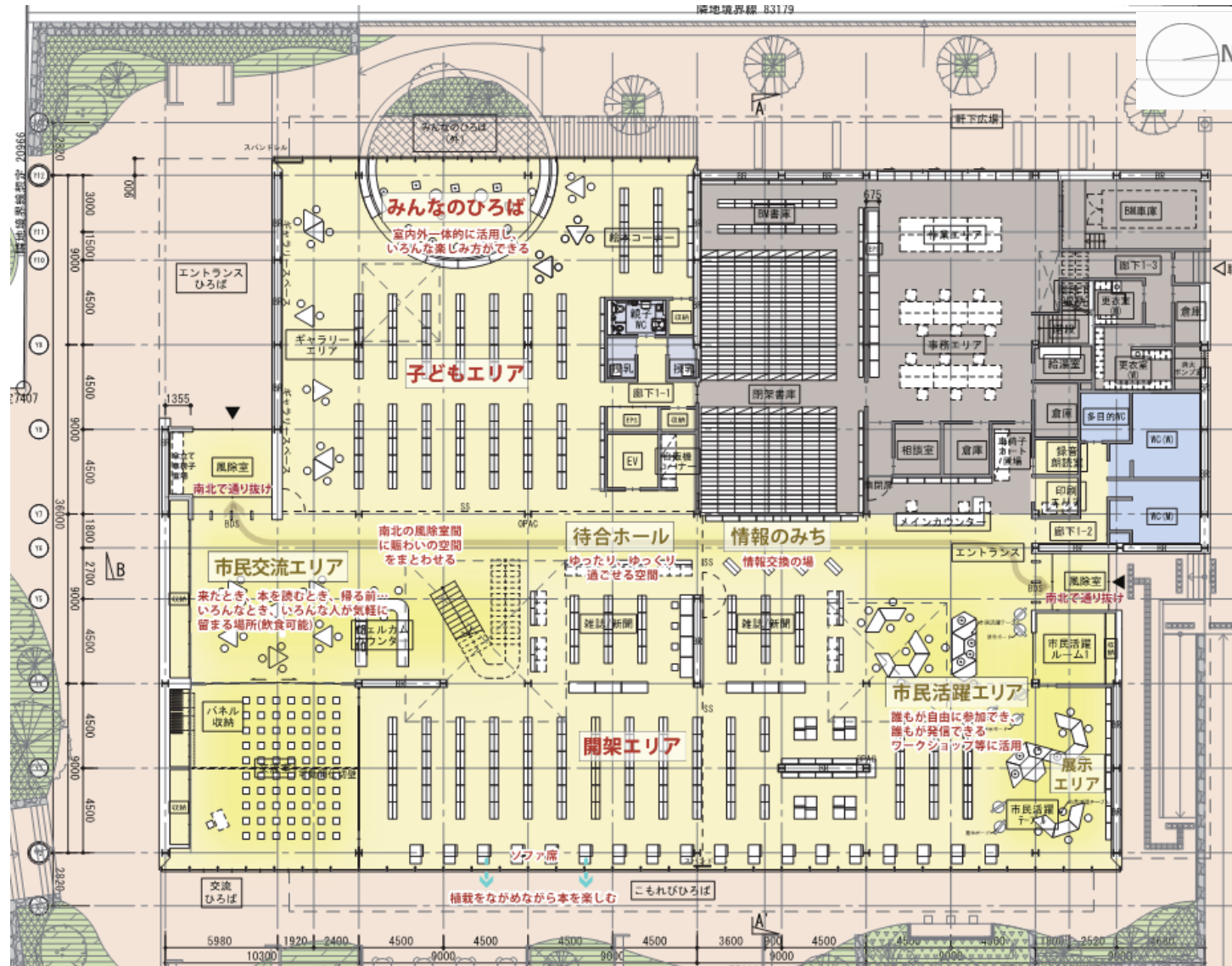


(2F 市民活躍エリア)

内部イメージ（みんなのひろば）



平面計画 1階



平面計画 1階

■市民が集い賑わう“動”の1階

市民交流エリアや市民活躍エリアといった市民が集う場所を点在させ、自然と集まった市民のコミュニケーションやワークショップが見え、図書館の活気を感じる空間を計画します。

■賑わいを受け入れる室配置

南北の風除室の動線上に市民活躍エリアなどの市民交流の場を設けつつ、周囲に子どもエリア、新聞雑誌コーナーなどの活気を受け入れるエリアを配置し、気軽に利用できる図書館をつくります。

■合理的なバックヤード

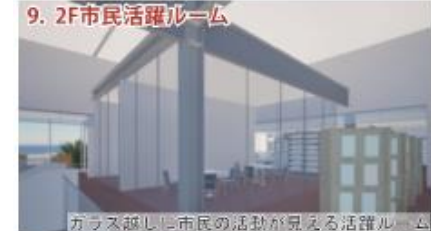
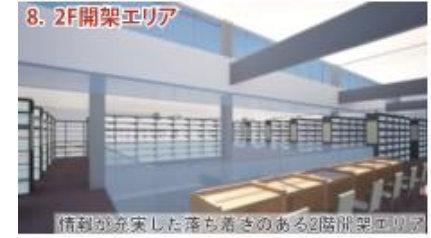
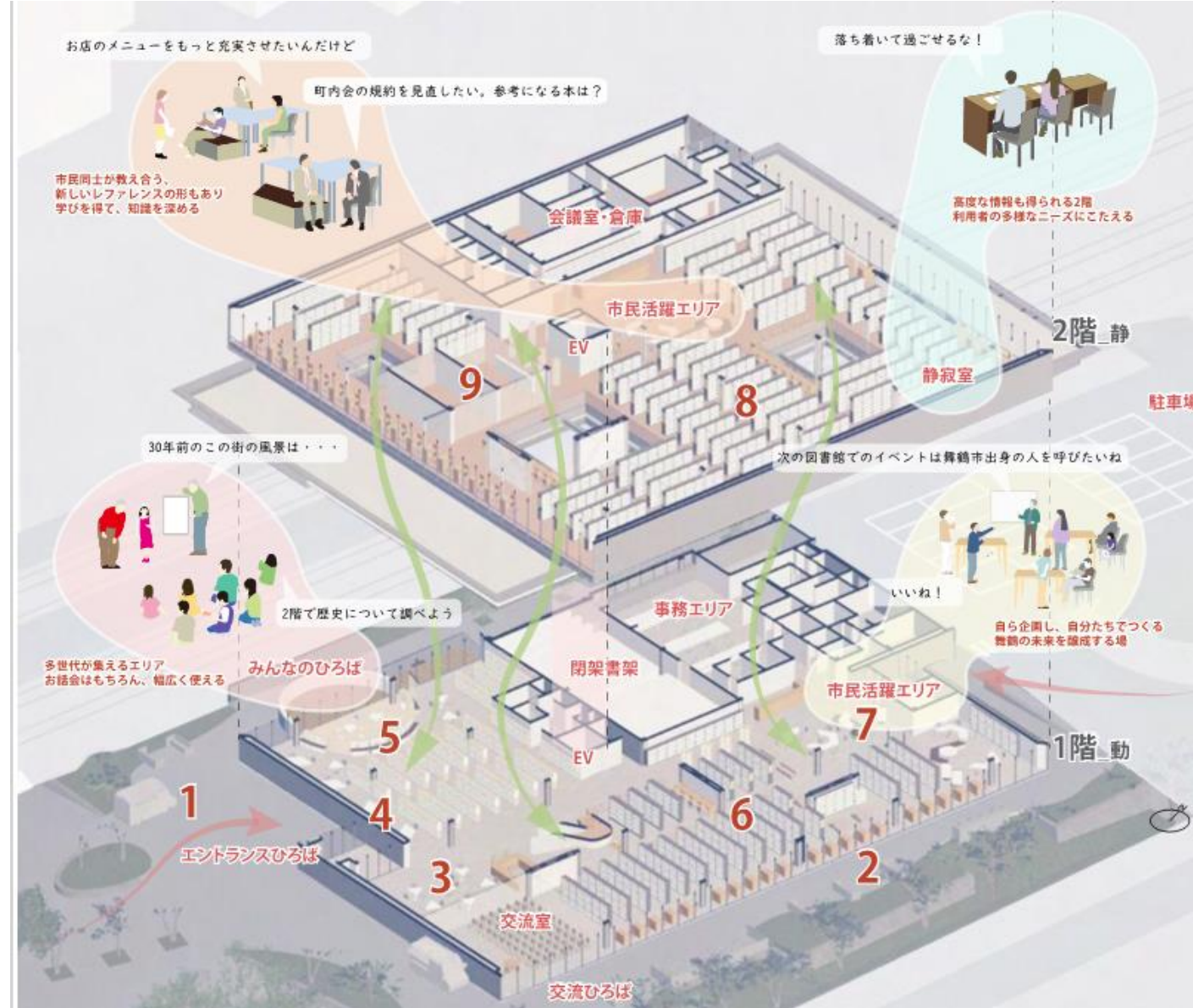
管理動線最短で完結し、運用のしやすい明快な管理諸室の配置をします。また、BM(ブックモービル)車から直接の本の搬出入を可能とし、本の運搬動線にも配慮します。



専門書を扱う開架エリア及び個人席「キャレル」を配置し、静かな雰囲気的空間を計画します。南北に開口や吹抜け部を設けることで、明るく快適な読書空間を実現します。

階段を上がると市民活躍エリアが目飛び込みます。市民活躍ルームでの市民活動の様子は、ガラス越しに外からも見えるつくりとし、興味や参加へとつなげます。展示エリアや市民活躍テーブルには、市民の作品や研究の成果物などが発表できるようにし、市民の交流を促進します。

各エリアの内部構成イメージ



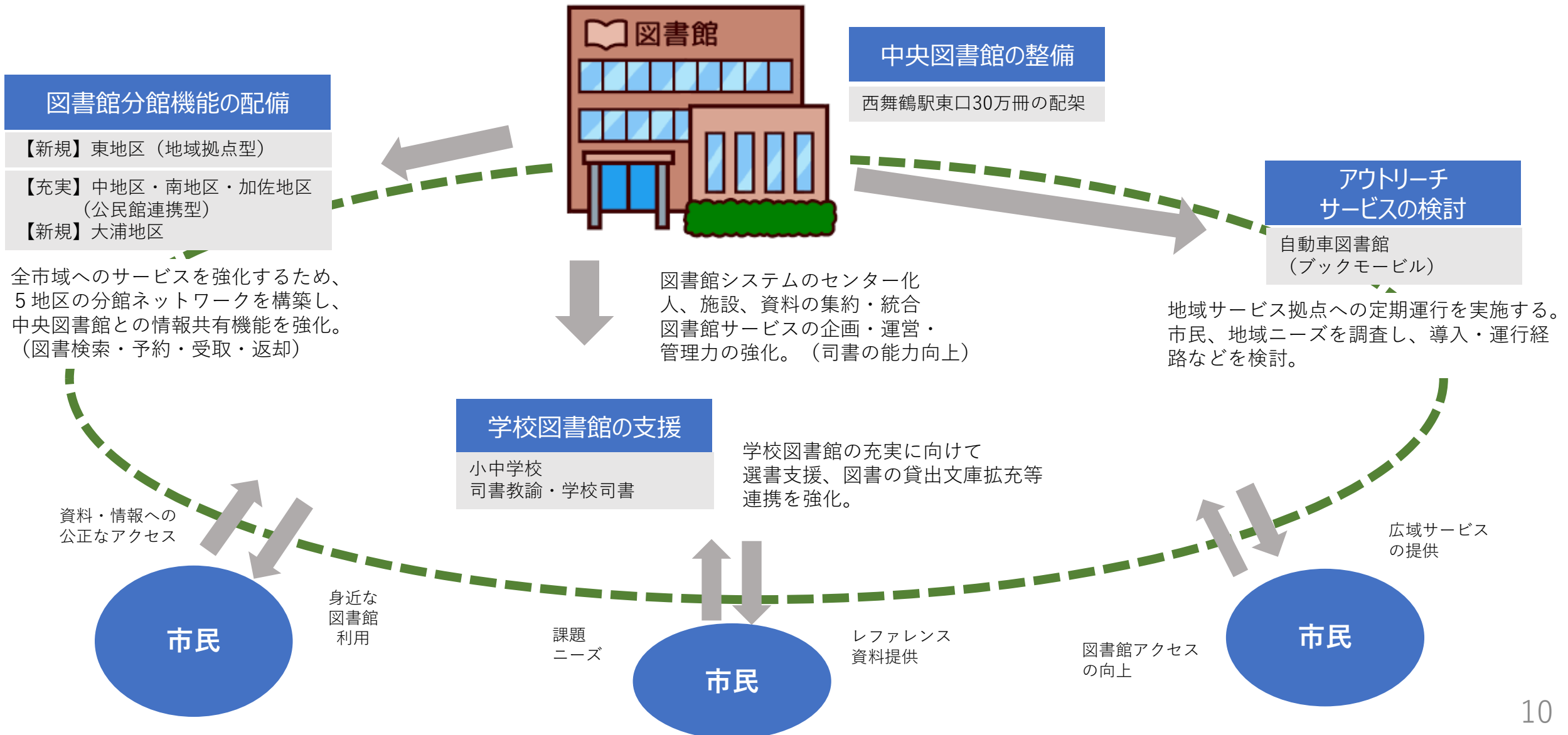
中央図書館整備の概算事業費

基本設計後の概算事業費 (中央図書館整備事業)	項 目	今回	(R5.10時点)	備 考 (増減要因等)
	1. 中央図書館の規模	3,600m ²	(3,600m ²)	延床面積
	2. 中央図書館概算事業費	約43.1億円	(約38億円)	R5～R11
	(内訳) 中央図書館建設費	約33.8億円	(約30億円)	建設費、図書費、備品等含む。 (物価高騰等による増)
	北側緑地整備費	約1.2億円	(約1億円)	緑地整備、道路等含む。 (整備範囲等の見直しによる増)
	用地購入費	約7.1億円	(約6億円)	図書館用地・北側緑地・道路用地 (水路付替工事費分等の増)
	除却工事費	約1.0億円	(約1億円)	東西図書館除却
	3. 財源内訳 (予定)			
	(1) 国庫支出金 (国土交通省)	約17.6億円	(約17億円)	(基本設計) 官民連携基盤整備推進支援調査費 (詳細設計・工事等) 都市構造再編集中支援事業 (予定)
	(2) 地方債	約19.9億円	(約16億円)	概算事業費増加に伴う増
	(3) 一般財源	約5.6億円	(約5億円)	概算事業費増加に伴う増

【整備方針】

図書館基本計画の理念・方針を堅持しつつ、財源の確保、事業費の抑制に努めることとする。9

舞鶴市をおおう図書館サービス網の再編にかかる施策



分館ネットワークと活用イメージ

①ネットワーク化し、個人利用者がどこでも検索・予約・受取・返却を可能とする。

②選書や運営・企画など中央図書館でコントロールし、活かした資料を巡回・配架

③各館の特徴に応じた蔵書を配備し、利用者の利便性を高める。
(育児関連本、産業関連本など)

【中央図書館】中央拠点・・・司令塔



＜東地区の分館＞



身近な知的空間

(事業者・就業者向け
サービスの強化)

ゆったりゆっくり

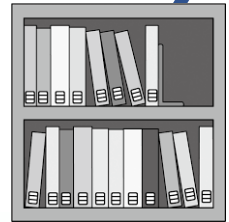
時間を過ごす空間
(多世代交流施設の機能を補完・補強)

東地区の分館については、他とは異なる機能を有する「地域拠点型」として、地域や施設利用者ニーズに基づく選書や蔵書数・必要規模を確保し、中央図書館との連携を密にするなど、広範囲な地域を補完する役割を担う。

※ 名称は公募予定

※ 分館とネットワークに関する市民との意見交換を予定

加佐分館 (公民館連携型)



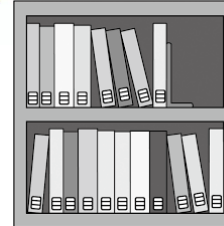
大浦分館

(受取・返却の可能な設備やB M拠点化など運営内容を検討中)



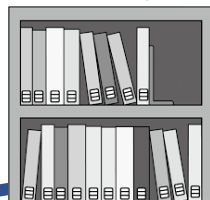
中央図書館から各分館に500冊程度

南分館 (公民館連携型)



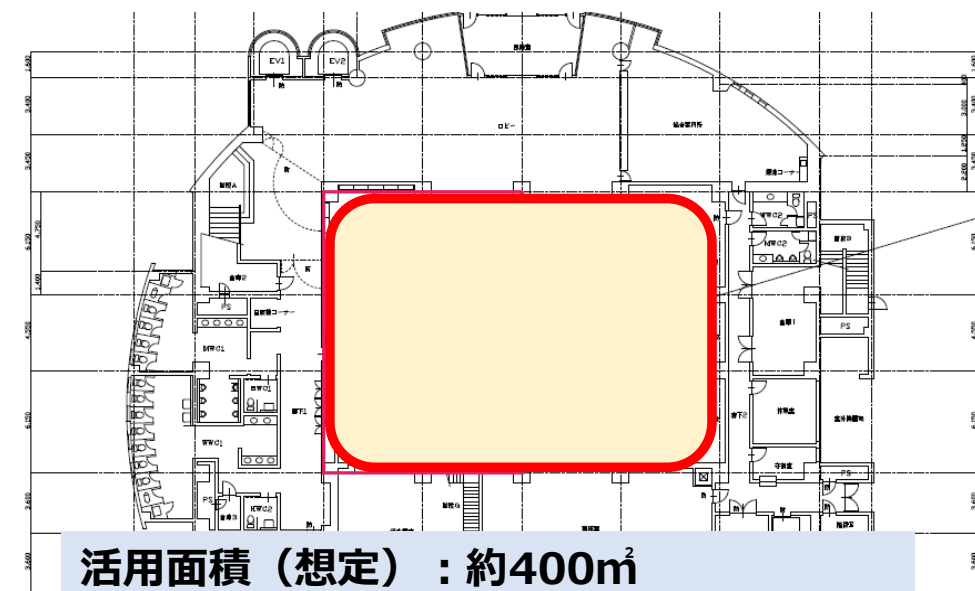
中分館

(公民館連携型)



※公民館連携型・・・公民館と連携して地域住民のニーズを反映したサービスや地域活動の支援、いこいの場としての活用を行う。

【商工観光センター】空間活用イメージ



活用面積（想定）：約400m²
蔵書数（想定）：2万冊～3万冊程度



【1階 ロビースペース】

【まなびあむ】空間活用イメージ



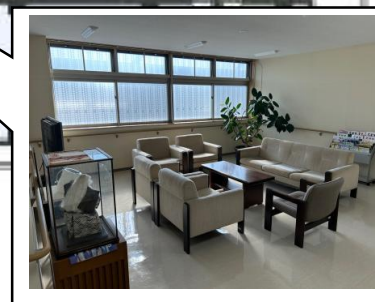
【2階】

活用面積（想定）：約100～150m²
蔵書数（想定）：5千冊～1万冊程度

- ・蔵書を新鮮な資料へ入替
- ・現在の施設利用者は、これまで通り利用可能。
- ・施設の機能や役割を補完・補強する図書館として活用する。



【3階】



東地区の分館のイメージ（施設別比較表）

施設名	商工観光センター 内 1 階ホール	まなびあむ 内2・3階
コンセプト	身近な知的空間 （事業者・就業者向けサービスの強化）	ゆったりゆっくり時間を過ごす空間 （多世代交流施設の機能を補完・補強）
特 色 （利用者）	○施設利用者の目的に合わせた通信環境やデジタル情報を備えるなど機能性を重視 ○商工会議所と連携した講座等の開催や高校生等を対象にした企業紹介の実施 ○高校生などが集い、気軽に調査研究・交流ができる場の提供 ○現在の東図書館利用者に加え、「現役世代」や「若者世代」の活用に見合う設備を設置	○ゆっくりおしゃべりをしながら過ごすことのできる空間を重視 ○高齢者がゆったりと自分の時間を過ごすことができる空間 ○自主学習を目的とする中高生などがゆっくり滞在できる空間や、個人でも活用できる自主学習スペースを配置 ○落ち着いて新聞・雑誌が閲覧できるコーナーを充実 ○高齢者による読み聞かせなどを実施 ※現在の施設利用者は、これまで通り利用可能。
蔵書等	○利用の多い一般書（小説・実用書・児童書など） ○ビジネス関連の専門書 ○就労支援に関する資料・情報	○新聞、雑誌などを豊富に配備 ○児童書・実用書・小説など利用の多い本を配備
サービス・設備	○カウンターで蔵書の貸出・返却を実施。 ○検索機を設置し、市内全館の本の検索、予約、受取、返却を可とする ○ミーティングや小規模な講座、調べもの等ができる机・椅子も配置 ○企業紹介動画やセミナーの案内等ができるモニターやスクリーンなどの設置を検討	○本を読みながらゆったり過ごすことができるよう座席を配置する ○書架は空間に応じて館内に分散して配置するが、カウンターを1ヶ所設け、そこで、本の貸出・返却を実施 ○検索機を設置し、市内全館の本の検索、予約、受取、返却を可とする ○会議室の一部を時間を限定して自主学習スペースとして活用する
窓口機能・レファレンス	○中央図書館からの司書の派遣 ○オンラインによる中央図書館司書によるレファレンス対応	○まなびあむ職員のうち、司書資格を持った職員が、本の紹介・相談受付などを実施 ○オンラインによる中央図書館司書によるレファレンス対応

【公民館連携型図書館】

分館名	施設	面積・現蔵書数	施設の特徴	今後の展開案	
				【各館別】	【共通事項】
中分館	中総合会館 	■面積：97m² ■現蔵書数：10,111冊 (一般書：4,516冊) (児童書：5,595冊)	複合施設内に、子育てや健康に関する市の窓口や男女共同参画センターを併設	●子育て世帯に対するサービス・健康に関する情報・蔵書を強化 ●ロビーを活用した、くつろぎの場を確保	●東・西図書館で借りた本を各分館でも返却可能（R7.1～）
南分館	南公民館 	■面積：42m² ■現蔵書数：6,610冊 (一般書：2,656冊) (児童書：3,954冊)	小学校・中学校が近くにあることから、学校と地域との連携が盛ん	●これまでの利用者である子どもから高齢者までの地域住民へのサービスに加え、新たに小中学生等が地域に興味・関心を持つきっかけづくりとなるような取り組みを強化	●ネットワークを結び、全館の本の予約・受取・返却を可とする。 ●東・西図書館司書による選書、読み聞かせを実施。
加佐分館	加佐公民館 	■面積：51m² ■現蔵書数：10,051冊 (一般書：3,587冊) (児童書：6,464冊)	地域活動の支援や移住定住促進事業などを行う加佐地域活性化センターや住民窓口である加佐分室が併設	●子どもから高齢者まで地域の幅広い年齢層を対象にサービス、蔵書を強化	●引き続き、幅広い層を対象にする。

■コンセプト：全域サービスを届ける動く図書館

図書館に足を運ぶことが難しい人のために、図書館が出向いていくサービス

【特色】 巡回拠点の利用者のニーズに応じた本を運行ルートごとに選定し、アウトリーチ型のサービスを提供する。

【蔵書等】 蔵書は自動車図書館用書庫で管理する。

【サービス・設備】

- ・遠隔地を中心に分館、学校、福祉施設などを拠点として、一定のスケジュールで自動車図書館を巡回させる。
- ・1台に1,000冊～3,000冊程度を積載し、その場で本を選び、貸出ができるとともに次回、受け取りたい本の予約も可能なシステムを構築する。
- ・運転手と司書が同乗し、現場で本の紹介等を行う。



今後、車種(大きさ・積載図書数)・台数・運行ルート(拠点)などを決めていく。

1. 土壌汚染対策工事

図書館用地として活用するにあたり、市として安全に活用するため、京都府保健所の助言のもと、土壌汚染区域の3箇所について、土壌の掘削撤去工事を実施する。

【実施期間】 令和 6 年度～令和 7 年度（掘削撤去工事）

【概算経費】 約 8, 0 0 0 万円

【実施機関】 舞鶴市土地開発公社

2. 既設水路移設工事

基本設計が完了し、整備予定範囲が確定したため、建設用地の地下にある水路について、建物整備の支障とならないよう、付け替え工事を実施する。

【実施期間】 令和 6 年度～令和 7 年度（実施設計・移設工事）

【概算経費】 約 8, 4 0 0 万円

【実施機関】 舞鶴市土地開発公社

令和6年度以降に実施予定の関連工事等

関連工事

土地開発公社による土壌調査の結果
土壌汚染対策法の基準値を超過する「鉛」を検出

溶出量基準超過
(A : 北側用地)

含有量基準超過
(B : コモ池川周辺)

含有量基準超過
(C : 南側用地)

含有

掘削除去

含有

掘削除去

溶出

掘削除去



掘削除去箇所



中央図書館建設範囲



付替水路

※含有量…土壌に含まれる物質の量
※溶出量…土壌に水を加えた場合に溶け出す物質の量

西舞鶴駅東口中央図書館建設用地

今後の予定

令和6年度	基本設計・ワークショップの開催 (土壌対策工事、水路付替工事)
令和7年度～	実施設計・ワークショップの開催 (土壌対策工事、水路付替工事)
令和8年度～	中央図書館建設工事開始
令和9年度末	中央図書館供用開始 (分館ネットワーク構築・サービス開始)
令和10年度～	東・西図書館の廃止・除却

問い合わせ先

事業名	担当課	担当者	電話番号	FAX番号	メールアドレス
中央図書館基本設計の概要と東地区の分館について	図書館課	山本・玉川	68-9221	62-9891	toshokan@city.maizuru.lg.jp